

和歌山県田辺湾に打上られた寸詰まりのマガキガイの貝殻（腹足類）

Shin KUBOTA : An individual of short shell *Strombus luhuanus* washed ashore in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

本州中部以南の浅海に普通に生息するマガキガイ *Strombus luhuanus* は、和歌山県田辺湾でもごく普通に見られる巻貝である（久保田ほか, 2005）。今回、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所“北浜”で、寸詰まりのマガキガイの貝殻が、2011年8月10日に1個打上られたので報告する。

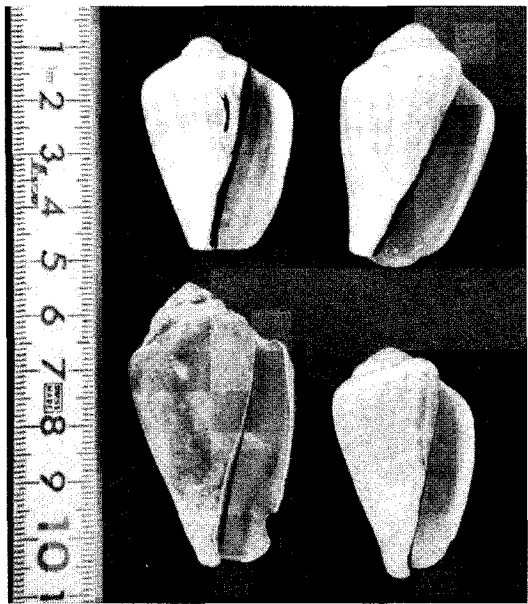


図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった寸詰まりのマガキガイと同種の普通個体との殻形の比較（左上の個体が寸詰まりで、右上と左下は殻幅が寸詰まり個体と同じ大きさで、右下は殻長が寸詰まり個体と同じ大きさ；右下のみ生体の貝殻で他は打上貝殻）

筆者は日本各地で本種の数多くの生体や打上貝殻を見ているが、このような寸詰まりの貝殻との遭遇は初めてである。同時期に同地点から採取した普通の貝殻と寸詰まり貝殻の比較のために（図1）、寸詰まり個体とほぼ同じ殻幅か（28・31mmの5個体）、あるいはほぼ同じ殻長のもの（38・41mmの8個体）を打上貝殻（2011年8月12日・14日北浜打上）と生体の貝殻（2011年7月北浜打上）から選んで、両者の比をとり比較した。その結果、殻幅を殻長で割った比は、どちらもその値が寸詰まり個体では約0.1大きかった（表1、寸詰まり個体を除く上・中欄）。寸詰まり個体と比較して殻幅が少し狭く殻長が少し短い打上貝殻も、殻幅が少し狭く殻長が少し長い貝殻も（2011年7月北浜打上の生体）、比は約0.1小さかった（表1、下欄）。成長したマガキガイの殻幅を殻長で割った比はほぼ一定で、0.56・0.64（N=15）の範囲にあった。本個体が寸詰まりになった理由は不明である。

表1 マガキガイの寸詰まり個体と普通個体の殻形の比較

殻幅 (mm)	殻長 (mm)	殻幅/殻長	注（寸詰まり貝殻 との対応と採集状況）
30	40	0.73	寸詰まり個体
28	46	0.61	殻幅がほぼ同じで打上
29	45	0.64	殻幅がほぼ同じで打上
30	49	0.61	殻幅がほぼ同じで打上
29	50	0.58	殻幅がほぼ同じで生体
31	55	0.56	殻幅がほぼ同じで生体

23	38	0.61	殻幅がほぼ同じで生体
24	38	0.63	殻長がほぼ同じで打上
24	39	0.62	殻長がほぼ同じで打上
23	40	0.58	殻長がほぼ同じで打上
24	40	0.60	殻長がほぼ同じで打上
24	40	0.60	殻長がほぼ同じで打上
24	40	0.60	殻長がほぼ同じで打上
25	40	0.62	殻長がほぼ同じで打上

23	36	0.64	対応せず打上
26	45	0.58	対応せず生体

引用文献

久保田 信・興田 喜久男・田名瀬 英朋・鯨坂 哲朗, 2005: フジツボ類と海藻類が着生した生きたマガキガイの和歌山県白浜町“北浜”への打ち上げ. 漂着物学会誌, 3: 45-46.

大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)